

緊急開催

公開フォーラム 災害列島日本、支え合う職人ネットワーク



福島県いわき市から岡山県総社市へ移築された板倉構法の応急仮設住宅
(2018年西日本豪雨)

災害に学ぶ これからの 木の家

地震・台風・温暖化型豪雨などの大災害が近年頻発しています。

しかし、それは今に始まった事ではありません。

日本列島の先人たちは、被災を機に新たな知恵を生み出し、
技術を進化させ、苦難を乗り越えてきました。

これからの木の家について、職人とともに皆で考える機会にしたいと思います。
皆様のご参加、ぜひお待ちしております。

日時 2019年10月5日(土) 14:00 → 17:30 (受付13:30~)

場所 唐津市文化体育館 文化ホール 佐賀県唐津市和多田大土井1-1

プログラム 基調講演／事例紹介／パネルディスカッション

参加費 一般 ¥1,000／学生 無料

掲載内容は変更になる場合があります。あらかじめご了承ください。

主催 | 一般社団法人 職人がつくる木の家ネット

共催 | 一般社団法人 伝統を未来につなげる会 / 認定NPO法人 日本民家再生協会九州沖縄地区 / NPO法人 伝統木構造の会九州地域会 / 九州空人の会
新建築家技術者集団福岡支部 / 九州大工志の会 / 有限責任事業組合 木の環 / NPO法人 森林をつくろう / NPO法人 緑の列島ネットワーク

後援 | 唐津市 / 公益社団法人 日本建築士会連合会(予定)

災害に学ぶこれからの木の家

プログラム

基調講演

災害から見た日本の木造建築の歴史

安藤 邦廣 氏 筑波大学 名誉教授

1948年宮城県生まれ。1973年九州芸術工科大学芸術工学部環境設計学科卒業。東京大学工学部助手を経て、1998年～筑波大学教授。2013年退職、同大学名誉教授。里山建築研究所主宰。著書に『職人が語る木の技』『小屋と倉』『民家造』『日本茅葺き紀行』ほか多数。



事例紹介

近年、日本各地で発生した自然災害に、職人たちが、いかに立ち向かい復興を進めているのか。貴重な体験談とともにご紹介します。

東日本大震災

2011年3月11日

佐々木 文彦 氏

(有)ササキ設計 代表取締役

1956年宮城県生まれ。地域材である杉材を主な建築材料とし、漆喰・和紙等の自然素材に依る、人にも地域環境にも負荷の少ない住まいづくりを実践。森林見学会等への参加を通して、住み手が納得し愛着の持てる家づくりに取り組んでいる。



熊本地震

2016年4月14日

古川 保 氏

すまい塾古川設計室 (有)

1947年佐賀県武雄市生まれ。私に災害が付きまとい、武雄にまでやってきた。前世に悪いことをしたのだろうか。震度7の地震が2回受けたことを少し深掘りしたい。大事なことは修繕可能な家づくりだ。良い来世を期待して。



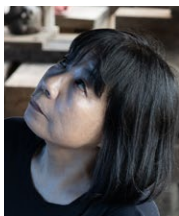
西日本豪雨

2018年6～7月

和田 洋子 氏

(有)バジャン 取締役

木組み、土壁、石場建てを専門に、新築及び古民家改修の設計と構造計算を行っている。西日本豪雨災害発生時には倉敷市と協力し、土壁住宅や古民家について修復方法の相談や現地調査にあたった。



九州北部豪雨

2017年7月

杉岡 世邦 氏

(有) 杉岡製材所 代表取締役社長

福岡県朝倉市生まれ。住宅・社寺・文化財等の木材を請け負う。西日本新聞にて『住まいのモノサシ』等を連載、木の魅力を発信した。九州大学大学院芸術工学府・博士後期課程。福岡大学非常勤講師、日本板倉建築協会理事など。



パネルディスカッション

災害に学ぶこれからの木の家

コーディネーター 安藤 邦廣 氏

